１．お楽しみ掲示・開示コーナーの設営

本校図書館は、図書室、図書準備室、そして、各教室棟と特別教室とをつなぐ広くて明るいスペースに設置されたオープン閲覧室という３つの部屋に、3 校が合併したために 8、300 冊ほどの蔵書を持つ、児童数１５２名という少人数にしては恵まれた環境にある。

特に、オープン閲覧室は、全校児童が体育・音楽等の学習に毎日通る場所にある。ここには、広い掲示板もあり、視覚を通して子ども達に図書館や本への興味関心をもたせたり、子どもが立ち止まって本を手にしたりするような開示コーナーを設置するには適した場である。

こうした利点を生かし、まずは、図書館が学校生活の中でいつも身近に感じられ、親しみやすくなるような雰囲気づくりや掲示・開示の工夫を行った。

① 雰囲気づくりとしての看板や学習・行事・季節等に合わせた掲示の工夫

子どもが自分たちの図書館という意識をもち、身近に感じられるような図書館にするために、図書館の愛称を全校児童から募集した。図書委員会児童の投票で、図書館の名前は、「ブックアドベンチャーワールド」と命名された。早速、“本の世界が広がり、心が豊かになる”ようなイメージの看板製作にとりかかった。公務技師の協力を得て、オープンスペースに掲示していただくとオープンスペースが図書館らしい雰囲気になってきた。

↑全校児童に募集して決まった、島根小図書館の愛称「ブックアドベンチャーワールド」

←初夏の掲示板。
鯉のぼりの鱗１枚１枚には、児童によるおすすめの本の紹介が書かれている。

↓秋の掲示板
本校は、毎年１０月に人権をテーマにした授業公開を行う。それに合わせて、友だち・人権を意識できる掲示を工夫した。

↓冬の掲示。
クリスマスの楽しい雰囲気に。掲示板の下には、クリスマスや冬に関連した本を開示。

広い掲示板やスペースを利用し、図書館への親しみを感じられるような季節感のある掲示展示を行った。

②　新鮮な情報が発信できるような開示コーナーの工夫

子ども達は、目新しい物に関心を向け、新鮮な情報のあるところに集まる。本への関心を高め、手にとって読んでみたくなるようなフレッシュな開示コーナーを工夫した。

←ホーランエンヤ展
写真や関係資料、松江市の歴史などを展示。
ホーランエンヤ参加経験のある公務技師の協力で、衣装や道具なども展示した。休憩時間には、采の振り方を教わったり、いっしょに記念撮影をするコーナーを行った。

↓校庭にある春の草花を摘んできて、本といっしょに展示。本を開いて、植物の名前を調べることができる。

サツマイモや柿、ススキなど、実物とともにと秋に関係のある本を開示。季節感があり、思わず本を広げて確かめてみたくなる。

←メディアづけの悪い子はおらんか～！」
１月末から２月に行われたノーメディア運動に合わせて、 読書の脳に与える効能をしらせ、鬼に関連の話や、おすすめの本を開示。

←図書委員会からの「ノーメディアデーにおすすめの本」

↓１月のテーマは、「命・生きる」性教育関連授業公開に合わせて開示。保護者に見て、よんでもらえるよう図書便りでも紹介した。

↑それぞれの学年の学習に合わせた本の紹介。３年生「ちいちゃんのかげおくり」から、あまんきみこ・戦争に関する本。児童の感想もいっしょに展示。

←２年生「スーホの白い馬」から、中国・モンゴルの本の紹介

←４年生「ごんぎつね」から、新美南吉の本の紹介

←新刊図書の紹介コーナー
開示後すぐに、かり出されてしまうため、ブックカバーや本のケースも展示してある。

←味気ない丸椅子には、布で暖かみのあるカバーを作成。

↓畳コーナー。座って、または寝そべって、くつろいで本を読むことができる。手前のテーブルには、テーブルクロスとマスコットで、楽しくくつろげる雰囲気を作った。

③ 読書のしやすい環境整備

読書センターとしての機能が充実するように読書しやすい環境を整えることに配慮した。畳コーナーの設置、椅子カバー、テーブルクロス、書架にマスコット等の工夫は、「なんかいい感じ」「なんか落ち着く」といった子どものつぶやきから、子どもがほっと落ち着ける雰囲気をつくることができたようである。

また、本探しのめやすとなるように、日本十進分類法、分類表示など館内に大きく掲示した。

↑日本十進分類表。大きく、色分け、イラストを入れるなど、児童に分かりやすくなるよう工夫。

↑本棚の場所や、図書室の利用の仕方を掲示。

↓低学年が特によく利用する動物コーナー。 分類番号とともに、絵と平仮名で表示。色テープやマスコットで、目に着きやすいようにした。

↑図書室入り口からカウンター近くは、特に楽しい雰囲気に。ようこそ図書室へ！